

## 今日のみ言葉 275 「主は、緑の牧場に休ませ、憩いのみぎわに導く」

2018.1.10

主は、わが牧者、私には何も欠けることがない。  
主は私を緑の牧場に休ませ、憩いのみぎわに導き  
魂を生き返らせてくださる。（詩篇23篇より）

The Lord is my shepherd, I lack nothing.  
He makes me to lie down in green pastures.  
He leads me beside the still waters.

詩篇のなかの真珠と言われるこの詩は、大多数のキリスト者にとって、最も心に響くものとなっている。

神が私たちの牧者なら、いっさいは解決するということである。なぜなら、神は全能であり、完全な愛であり、真実な御方であるから。

そのことを詩的に美しく言い表している。私たちを緑の牧場に休ませる—それは羊にとって緑の草はいのちを支えるものである。同様に、神は私たちに命のパンというべき神の言葉、聖霊を与えて、深い平安、主の平和をあたえてくださる。

それこそが、いかなることにも増して私たちの魂の平安となる。

さらに、憩いの水際とは、やはり生きるに不可欠の水のあるところに導いてくださるということであり、私たちにとってそれはキリストのいのちの水を与えられることである。

そのようにしていただけるなら、たしかに私たちの魂は、暗い沈んだ方向から方向転換して、生き返る。

これはダビデの詩として伝えられている。ダビデとはキリストよりも千年ほど昔の王であり、今から三千年ほど昔である。そのようなはるかな古代にうたわれた詩が、それ以後数千年にわたって無数の人たちの魂を流れ、うるおしてきたということは驚くべきことである。

詩はどここの国でも、古代からつくられている。しかし、このような長期にわたってしかも世界で広く愛され、それが単なる言葉の美しさとか特定の状況にある人だけが体験できる内容でなく、ありとあらゆる時代のいかなる状況に置かれた人であっても、この詩篇の真理は、生涯を通してじっさいに体験できるという点において、比類のないものである。

上記に引用した部分に続いて、次の言葉がある。

...死の蔭の谷を行くときも

私は災いを恐れない。

あなたが私とともにいてくださるから...



イブキトラノオは、私の住む徳島県の剣山（1955m）にも見られ、いまから50年ほど昔にのぼったときに、だれもない高原ですらりと花茎を立てて咲いている姿を初めて目にし、それ以来忘れられない植物です。

最初に伊吹山で見いだされ、またこの山にとくに多いと思われたゆえに、名前にイブキが付いていますが、ほかの山々にもよく見られるものです。

トラオノという名前の植物は、ほかにもいろいろあり、園芸用として親しまれるカクトラノオ（ハナトラノオ）、また山野に見られるオカトラノオ、ルリトラノオ...

この写真は、滋賀県と岐阜県の境にある伊吹山（1377m）の山頂付近に咲いていたものです。淡いピンクの花があちこちに咲いているのは、カワラナデシコです。

遠くに山々をのぞむ山頂部にあって、澄んだ大気のなか、青いやまなみを展望しつつ、素朴な美しさをもって咲いています。

この花の姿を見ていると、私たちも、さまざまの汚れのある現実の世界だけを見つめるのではなく、つねにこうした 高みに引き上げられ、神の御手による、清くて美しい世界に置かれて、清澄な大気を取り入れつつ、心の目で見つめていなければ—と思わされます。（写真・文ともT.YOSHIMURA）